

令和5年度行政事業レビューシート			(文部科学省)				
事業名	大学が保管するアイヌ遺骨の返還に向けた手続等に関する調査研究			担当部局庁	研究振興局	作成責任者	
事業開始年度	平成27年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	大学研究基盤整備課	大学研究基盤整備課長 黒沼 一郎	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	・アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針(令和元年9月6日閣議決定) ・「個人が特定されたアイヌ遺骨等の返還手続に関するガイドライン」について(通知)(閣副第363号 及び 26文科振第126号) ・「大学の保管するアイヌ遺骨等の出土地域への返還手続に関するガイドライン」について(通知)(閣副第831 及び 30文科振第336号 及び 国北総第91号)		
政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化			主要経費	その他の事項経費		
施策	8-2 基礎研究・学術研究の振興						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	大学が保管しているアイヌ遺骨について、アイヌの人々への返還に向けた手続き等を実施することや、慰霊施設への集約を実施すること等を通じ、返還手続き等に関するアイヌの方々の信頼を確保する。						
現状・課題 (5行程度以内)	国内の大学等には研究資料等として、明治以降に発掘・収集したアイヌの人々の遺骨が保管されているが、それらの中にはアイヌの人々の意に関わらず収集されたものも含まれていると見られている。 また、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」以降、先住民族にその遺骨を返還することが世界的な潮流となっていることを鑑み、関係者の理解及び協力の下で、アイヌの人々への遺骨等の返還、アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現を図ることとなったもの。						
事業概要 (5行程度以内)	大学が保管しているアイヌ遺骨の返還・集約に向けた手続き等について、その検討や実施等を行う。 具体的には、「大学の保管するアイヌ遺骨等の出土地域への返還手続に関するガイドライン」に基づく返還手続や、慰霊施設への集約、慰霊施設に保管されているアイヌ遺骨の状況把握・調査等を行い、アイヌ遺骨の返還・集約を推進する。						
事業概要URL	-						
実施方法	直接実施						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	7.6	6.7	6	6	6
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
	予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	7.6	6.7	6	6	6	
	執行額(G)		1.2	0.2	1.2		
	執行率(%) =(G)/(F)		16%	3%	20%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		16%	3%	20%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	研究振興費					
	(目)	委員等旅費	3	3			
	(目)	職員旅費	1	2			
	(目)	諸謝金	1	1			
	(目)	庁費	1	1			
		その他		▲ 0			
	計(A)		6	6			

活動内容① (アクティビティ)		第三者委員会の運営を行い、ガイドラインに沿った適切な返還手続を進める。また、関係大学の協力のもと、遺骨に関する情報の収集・調査を進める。さらに、慰霊施設に集約された遺骨について、継続的な状況把握及び調査を実施する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		関係大学の協力促進	関係大学の協力を促進する 取組として行った会議の開催 数	活動実績	回	1	2	1	-	-
				当初見込み	回	2	2	2	2	1
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	アイヌ遺骨の返還、集約、関係情報の収集等を進めるためには関係大学の協力が不可欠であり、定期的な情報共有等の場としての会議等の開催により、関係大学が当事者意識を持って協力を務めることにつながるため。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		地域返還、慰霊施設への集約の着実な実施	アイヌ遺骨の返還、集約、関係情報の収集等の取組を行っている大学の割合	成果実績	%	100	100	100	-	
				目標値	%	100	100	100	-	
				達成度	%	100	100	100	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		事業の性質上、全ての大学からの遺骨の関係情報の収集等に関する協力を維持することは必須かつ指標としても有用であるため。なお、遺骨を年何体返還するというような目標設定は適さない。								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	関係大学の取組は、閣議決定のとおり、アイヌの人々への遺骨等の返還を進め、直ちに返還できない遺骨等についてはウポポイに集約することで、アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現を図るためのものであるため。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		アイヌの人々による遺骨の尊厳ある 慰霊の実現	-	成果実績	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	-		
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		・アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針(令和元年9月6日閣議決定) ・慰霊施設に集約された大学が保管するアイヌの人々の御遺骨の数について(令和2年10月 文部科学省) なお、既に実現した御遺骨の返還や集約の実績はあるが、関係者のご意向を尊重しながら実施していく物であることから、遺骨を年何体返還するというような目標設定・成果実績値としては記載しない。								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」では、アイヌ施策の推進により、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現を図り、もって全ての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。 そのために、本施策によりアイヌの人々との信頼を確保することと共に、国際社会からの信頼も確保する必要があるため。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		アイヌの人々との信頼を確保すると共に、国際社会からの信頼も確保する	世論調査における、「アイヌの人々に対する理解を深める取組の効果が出ているから」の回答比率の向上	成果実績	%	-	-	15.4	-	
				目標値	%	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		「アイヌに対する理解度に関する世論調査」(令和5年2月 内閣官房)								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アイヌの人々からの信頼を確保するための取組を数値化することは困難であり、定性的な取組を複合的に実施することで実現させる必要があるため。								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容② (アクティビティ)		今後のアイヌの人々の研究の在り方に関する関係者間の検討への支援を実施する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		研究の在り方に関する関係者の検討 への支援の実施	関係者の検討への支援を行っ た回数	活動実績	回	1	3	3	－	－
				当初見込み	回	－	－	3	2	－
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	関係者への検討の支援により、研究の在り方に関する指針が策定される等により、適切な在り方に基づく研究が実施される環境が構築されるため。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		研究の在り方に関する指針の実現等	アイヌの人々及び関係学会に よる研究倫理指針の策定	成果実績	策定数	－	－	－	－	
				目標値	策定数	1	1	1	1	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		アイヌ遺骨等を用いた今後の調査・研究が可能となる条件に関する基本的な考え方(平成27年3月19日 政策推進作業部会)								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」では、アイヌ施策の推進により、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現を図り、もって全ての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。 そのために、本施策によりアイヌの人々との信頼を確保することと共に、国際社会からの信頼も確保する必要があるため。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		アイヌの人々との信頼を確保すると共 に、国際社会からの信頼も確保する	世論調査における、「アイヌの 人々に対する理解を深める取 組の効果が出ているから」の 回答比率の向上	成果実績	%	－	－	15.4		
				目標値	%	－	－	－		
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針(令和元年9月6日閣議決定) 「アイヌに対する理解度に関する世論調査」(令和5年2月 内閣官房)								
アウトカム設定につい ての説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アイヌの人々からの信頼を確保するための取組を数値化することは困難であり、定性的な取組を複合的に実施することで実現させる必要があるため。								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

大学が保管しているアイヌ遺骨の返還に向けた手続等について、検討を行い、関係大学の体制整備を推進するために、必要な会議への出席及び外部有識者との意見交換などの旅費等を措置する。

文 部 科 学 省
(1. 25百万円)

A.委員等旅費(6名)
0.412百万円

B.職員旅費(3名)
0.744百万円

C.諸謝金(2名)
0.01百万円

D.庁費(1社)
0.084百万円

大学が保管しているアイヌ遺骨の返還・集約に向けた手続等について、検討を行うために、必要な会議等に委員等が出席するため等の旅費

会議、外部有識者との打合せ、慰霊施設に保管されているアイヌ遺骨の状況把握・調査等のために職員を派遣する旅費

大学が保管しているアイヌ遺骨の返還・集約に向けた手続等について、検討を行うために、必要な会議等に出席した際の諸謝金

会議等の開催に係るその他経費 等

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
委員等旅費	会議等出席旅費	0.1	職員旅費	会議等出席旅費	0.4
計		0.1	計		0.4
C.			D.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
諸謝金	会議等出席謝金	0	庁費	会議等の開催に係るその他経費 等	0.1
計		0	計		0.1

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

